

◆俯瞰メルマガ第 94 号◆

俯瞰工学研究所の松島克守のメールマガジンです。俯瞰メルマガ 94 号をお送りします。

◆時候のご挨拶◆

紅葉の季節が始まりました。昔に比べると遅くなりました。枯葉として散る前に赤く黄金色に身を焦がして、この世に別れを告げるのです。人間も紅葉をして、この世に別れを告げますか。どんな色に染まるのでしょうか。

- トランプという個人に振り回される世界
- 世界経済における中国の存在感
- 年末まで気になる事
- 我が家の新しいガジェット
- 第 71 回俯瞰サロン
- 俯瞰のクッキング“雑誌の記事から”
- 俯瞰の書棚 “未完の資本主義”
- 雑感・私感

◆トランプという個人に振り回される世界◆

トランプ大統領という特異な人格に、アメリカも世界も振り回されています。ごく最近では、所得税も贈与税もないフロリダ州にニューヨークから居住地を移すということですが、脱税目的だと非難されています。

トランプ大統領の弾劾調査の証言が、いよいよ公開になります。何が出てくるかですが、トランプ大統領に不利な証言が出てくることは、目に見えています。ですから、彼は狂犬のように吠えまくっています。

アマゾンのジェフ・ベゾスがワシントンポストのオーナーであることを忌み嫌うトランプ大統領は、国防省の大型入札でアマゾン排斥、マイクロソフトに落札させました。大統領の権限がどれほど強いかを披瀝したわけですね。アップルの CEO ティム・クックは、いち早くトランプ大統領に取り入り、中国からの輸入に対する関税引き上げを回避しています。

シリアから米軍を撤退させ、トルコのクルド人排除を容認し、IS 掃討で血を流して米軍に協力したクルド人勢力をあっさり見捨てました。これには、アメリカ国内でも激しい批判が起きました。すると突然、シリアの油田地帯に米軍を進駐させると発表し、クルド人に、この油田地帯に移住したらどうかと提案しました。彼のすべての言動が衝動的であることを、世界中が共有していますが。

クルド人の切り捨ては、同盟国に衝撃を与えたと思います。イスラエルやサウジアラビアも、アメリカとの同盟の虚構を感じたかもしれません。日本にとっても、改めて日米同盟の実態を再認識しなければならないことを知らしめたと思います。これまでオバマ大統領もトランプ大統領も、尖閣列島は日米安保条約の対象であると説明してきましたが、実際は有事にも直接的に兵力を出すことがなく、軍事衛星からの情報の提供と沖縄から睨みを効かせる程度の支援だと認識する必要があります。ですから、日米同盟とは別の枠組みで、中国と安全保障を探っていく必要を再認識しないと。

トランプ大統領の一連の衝動的な行動で漁夫の利を得たのが、プーチン大統領です。シリアのアサド政権を空爆で支援しつつ影響力を広げ、今度の米軍のシリア撤退でシリアでの圧倒的な影響力を確立しました。

ただその影響力でシリア内戦の終結のリーダーシップをとっていることは、この地域および世界にとっても好ましいことですから、他の中東諸国もロシアとの関係を重要視していくのではないのでしょうか。結果として、アメリカのこの地域における影響力は大幅に衰退して、ロシアが大きな影響力を持つことになるでしょう。

もともとロシアとイランは関係が深く、加えてプーチン大統領はトルコとの関係を強化してきました。そしてトルコは、アメリカの反対を押しきってロシアの防空システムを導入しました。プーチン大統領は、中近東の他の国々にもロシアの武器輸出を推進するでしょう。アメリカとの軍拡競争を自国の経済では賄えませんから、武器輸出によって、そのコストを補うつもりだと思います。

無論このような中近東におけるロシアの影響力の拡大は、NATO 諸国の大きな懸念になっていますが、NATO との関係性を重視していないトランプ大統領にとっては、どうでもいいことでしょう。かつて冷戦時代には、トルコはソ連と対峙する NATO の最前線でした。

結果として、幼稚で衝動的なトランプ外交に対して、プーチン大統領の外交戦略は賢く戦略的に見えます。頭の中身の差異が際立ちます。そしてそのプーチン大統領と日本は外交関係を強化していく必要に迫られています。

地元で不人気の大統領 愛するニューヨークを惜しまれずに去る

<https://news.yahoo.co.jp/byline/abekasumi/20191102-00149317/>

トランプ氏の弾劾調査を決議、証言など公開へ

<https://www.bbc.com/japanese/50258455>

アマゾン「受注敗北」に見る、トランプ新手法の威力

<https://jp.reuters.com/article/breakingviews-amazon-idJPKBN1X90CL>

IS 指導者がシリアで死亡とトランプ氏 「米軍の強襲で」

<https://www.bbc.com/japanese/50204203>

「クルドを裏切った」米軍内から怒りの声

<https://www.cnn.co.jp/usa/35143988.html>

トランプ氏、クルド人に油田地帯への移住提案 米軍は装甲車派遣

<https://www.cnn.co.jp/usa/35144450.html>

米軍撤退で追い詰められたクルド人がシリア、ロシアと手を組んだ

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2019/10/post-13184.php>

トランプ氏、トルコのロシア接近容認 NATO と溝

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO51352810U9A021C1FF1000/>

ロシアがシリアで影響力拡大、米軍撤退の空白埋める一国境付近で監視

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-10-15/PZFAWXT0G1KW01>

シリア北部 米軍とロシア軍部隊が交錯する異例の状態に

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20191027/k10012152341000.html>

トルコのシリア侵攻、ロシアの中東戦略に希望とリスク

<https://jp.reuters.com/article/russia-middleeast-turkey-idJPKBN1WQ0F0>

◆世界経済における中国の存在感◆

米中貿易戦争は、世界経済に大きな影を落としています。輸出依存が高いドイツや欧州諸国も、経済の停滞に苦しんでいます。アメリカ自体も、製造業中心に景気後退の懸念が強まっています。中国も貿易戦争の結果輸出が大幅に落ち込み、それに関連して国内の製造業も不振を極めているようです。そして、この経済の懸念は中国国民の消費意欲にも影響し、結果として各国の中国輸出は大幅に落ち込んでいます。

ただ中国経済については、米中の貿易戦争の影響だけでなく、中国経済そのものが「成長の限界」という壁につき当たっており、経済構造の再編成が進んでいるのではないかという見方も有力です。

私も何度かこのメルマガで書いていますが、2ケタ成長から5%成長へゆっくりと、しかし苦しみながらソフトランディングしていると認識しています。といっても、中国経済は巨大で、世界経済はその影響を大きく受けていますから、中国経済が調整局面に入れば、世界経済の成長は鈍化することになります。

日本もこの中国の調整局面、設備投資の先送りの影響を受けて工作機械業界や建機業界など大きな影響を受けています。ということで日本の成長率も落ちてきます。

特に韓国経済は中国輸出の大幅な落ち込みで、深刻な状況にあるようです。文在寅政権の経済政策について国内で厳しい批判が上がっています。結果として対日関係の改善も少し開けつつあります。

IMF世銀年次総会、世界各国がトランプ氏貿易戦争に悲鳴

<https://jp.reuters.com/article/imf-worldbank-trade-idJPKBN1X0018>

貿易戦争、製造業に打撃＝高まる景気後退懸念－米

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019100300359&g=int>

中国、9月の対米輸出が約22%減 続く貿易戦争の影響

<https://www.sankei.com/world/news/191014/wor1910140014-n1.html>

中国経済、7－9月は6%成長と予想超える減速－世界経済に試練

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-10-18/PZJSB7T0AFB501>

中国経済は“成長の限界” 「想定外の過去最低」が示す本当の意味

<https://www.sankeibiz.jp/macro/news/191030/mcb1910301441025-n1.htm>

沈むアメリカ製造業、世界経済に暗雲 指標節目割れ、ドイツも低迷深刻

<https://www.sankeibiz.jp/macro/news/191003/mcb1910031210022-n1.htm>

ドイツ製造業受注指数、8月は前月比低下－市場予想の2倍の落ち込み

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-10-07/PYZZ436K50XY01>

韓国GDPは0.4%増に鈍化、貿易摩擦響く

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-10-23/0-4-0-5>

◆年末まで気になる事◆

年末までに気になる事が、いくつかあります。まず英国のEU離脱の決着です。ジョンソン首相は総選挙に持ち込むことができましたが、総選挙で過半数が取れるかは不明です。そして確かに世論調査では有利ですが、前回のメイ首相の総選挙では、結果として過半数割れを起こして、その後の混乱につながりました。労働党のコービン党首が時代遅れの国有化などと叫んでいるために世論調査で支持されていませんが、EU離脱に関する世論調査では、EU残留の方が上回っています。EU残留を声高に主張している自民党が意外と票を集め、結果として保守党は過半数が取れずに、国民投票になだれ込むことも考えられます。そして、英国のEU離脱は幻に終わってしまうかもしれませんね。

北朝鮮の挑発が止みません。年末までに答えを持ってこいと、トランプ政権に圧力をかけています。もしかしたら、トランプ大統領は北朝鮮との核協議に興味を失っているかもしれません。もともと来年の再選しか頭にありませんから、無理をして変な妥協すれば却ってマイナス要因になります。もともと北朝鮮に核放棄の意思はないと思いますから、年末までに結果が出るとは思いませんが、この間も北朝鮮の核開発、ミサイル開発は進行しています。

可哀そうなのは、文在寅政権です。南北融和政策を基本として米朝会談の仲介に努力して来ましたが、そのトランプ大統領からつれなくされ、北朝鮮からは南北融和の象徴的な観光事業から韓国を排除するという通告を受けています。口汚く文在寅政権を批判する北朝鮮に対し、保守系を中心とした韓国民からは、南北融和政策そのものに批判が出ています。文在寅政権退陣の集会の規模はすごいですね。

米中貿易交渉がどこまで進捗するのか気になります。トランプ大統領は選挙民に成果をアピールしたい気持が強く、そして交渉結果に一喜一憂している株式市場を見ると、経済界も期待していると思います。ただ、根底にある米中の新冷戦は決着がつくものでありませんから、大きな進展はないと思います。この中で、日中関係の経済関係が改善されて、日本経済に好ましい結果が出るといいですね。

アジア太平洋の16か国が参加するRCEPの閣僚会合が、タイのバンコクで年内の妥結に向けて詰めの議論が行われました。「交渉をなんとか終わらせるという、各国の強い意志と意欲が共有され、残された相違点を埋めるべく建設的な議論が行われた」と伝えられていますから、年内妥結の可能性は高いですが、依然として中国・インド間の意見の隔たりは大きいとのこと。アメリカと経済的に対峙を余儀なくされている中

国にとって、RCEPは重要な大型EPAですので、強力なリーダーシップでまとめ上げる可能性はあります。日本にとっても極めて重要なEPAです。ですから、結果が気になります。

◆我が家の新しいガジェット◆

我が家に新しいガジェットが加わりました。グラスサウンドスピーカー(LSPX-S2)です。外見はガラスのランタンのようなのですが、このガラスが振動して透明感のある音を再生します。見ていても美しく、ウイスキーやワインを傾けながら音楽を聴く、そんなシーンにぴったりです。この辺は、下記のサイトを見ていただければ分かります。書斎においてiPhoneからの音楽を再生しています。まさにガジェットです。またソニーを買ってしまいました！

以下メーカーのアピールです。

「スピーカー全体からリアルでクリアな音を奏でる構造
空間に溶け込むデザインながら、高音質も両立。透明な有機ガラス管は、高域を再生するトゥイーターになっており、真ん中に配置されているウーファーからは中域を再生しています。また、下部には低域を再生するパッシブラジエーターが配置され、スピーカー全体で音を奏でています。スピーカー全体から、360度全体に音が広がるので、部屋の中心にあるダイニングテーブルの上などに置くのにおすすめです。」

「360度に音が広がる『サークルサウンドステージ』

高域・中域・低域すべての音が360度に広がるよう目指した独自の音響構造で、部屋のどこに置いても、どこで聴いても高音質を楽しめます。また、通常のトゥイーターは指向性が狭く、スピーカーから離れるほど聞こえにくい特性がありますが、グラスサウンドスピーカーは有機ガラス管全体が縦に長い円筒状の振動板であるため、距離による音の減衰が少ない特長があります。そのため、目の前で生演奏が行われているようなリアルな音が部屋全体を満たします。」

「生演奏のようなリアルな音を再現する技術『アドバンスド パーティカル ドライブ テクノロジー』

弦楽器や打楽器を物理的に指ではじいたり、叩いて音を出すのと同じように、加振器が有機ガラス管(振動板)の端面を叩き、振動を有機ガラス管全面に伝えます。音の出し方の原理が近いことで、楽器の質感描写に優れ、人の細かな息遣いまでもリアルに再現することを可能にした、ソニー独自のスピーカー駆動技術です。」

「アナログまたはWi-Fi接続でDSD音源や最高192kHz/24ビットのハイレゾ音源に対応

最大192kHz/24bitのPCM方式の音源に対応。豊富な情報量(例:96kHz/24bitの場合、CDの約3倍)であるため、本来のスタジオやコンサートでの息づかい・空気感を体感できます。また、スーパーオーディオCDに用いられるDSDの再生も可能です」

「Bluetooth接続でもハイレゾ音質で楽しめる

LDAC対応 LDAC対応機器との接続なら、ハイレゾコンテンツを従来の最大約3倍の情報量で伝送できるので、ハイレゾコンテンツも原音の細かい表現まで忠実に再現された音質でお楽しみいただけます。有線で接続している場合は、ハイレゾコンテンツをそのまま楽しむことができます。」

「CD音源や圧縮音源をハイレゾ相当の高音質にする

『DSEE HX(TM)』音楽ファイルの高域を補完するとともに、サンプリング周波数とビットレートを本来の数値より高めることで、CD(44.1kHz/16bit)以上の音質(192kHz/24bit・48kHz/24bit)に変換。MP3などの高圧縮音源もCD以上の高音質になり、さらにクリアな躍動感あるサウンドを楽しめます。」

https://www.sony.jp/active-speaker/products/LSPX-S2/feature_1.html

<https://www.sony.jp/active-speaker/special/glass-sound/>

◆第71回俯瞰サロン:本日11月5日(火)開催◆

「元鎌倉投信創業者の新井和宏さんに伺う
共感コミュニティ地域通貨 eumo の実証実験開始
目指すは、共感資本社会の実現」

鎌倉投信の創業者で、投資信託「結い 2101」の元運用責任者の新井和宏さんは、昨年、株式会社 eumo を設立され、共感資本社会の実現に向けて活動されています。

今年9月には、電子通貨“共感コミュニティ通貨 eumo(ユーモ)”を利用することで、「参加者が加盟店のある地域へ赴き、生産者と交流を深める」ことを促し、「参加者、生産者、地域住民の間で共感をひろげる」ための実証実験を開始されました。

eumo の目標である「共感資本社会の実現」とは何か？ eumo の仕組みは？ 今回の実証実験の内容は？ 等々を伺います。

・日時 :11月5日(火)18時30分～(18時開場)20時

・会場: [品川インターシティ会議室 東京都港区港南2-15-4](#)

・参加費:受付にて申し受けます。

講演会のみ(～20時)1,000円、懇親会 3,000円

・懇親会:講演終了後に懇親会を開催します。終了時刻 21時30分。

・講師 新井和宏(あらい・かずひろ)さんプロフィール:

株式会社 eumo 代表取締役、ソーシャルベンチャー活動支援者会議(SVC)会長

1968年生まれ。東京理科大学卒。1992年住友信託銀行(現 三井住友信託銀行)入社、2000年バークレイズ・グローバル・インベスターズ(現ブラックロック・ジャパン)入社。公的年金などを中心に、多岐にわたる運用業務に従事。2007～2008年、大病とリーマン・ショックをきっかけに、それまで信奉してきた金融工学、数式に則った投資、金融市場のあり方に疑問を持つようになる。2008年11月、鎌倉投信株式会社を元同僚と創業。2010年3月より運用を開始した投資信託「結い 2101」の運用責任者として活躍した。2018年9月、株式会社 eumo(ユーモ)を設立。

かんしんビジネスクラブ アドバイザー、株式会社 QWAN アドバイザー、Sustainable Co-Innovation

Forum(SCIフォーラム) 理事、VENTURE FOR JAPAN オフィシャルサポーター

特定非営利活動法人いい会社をふやしましょう理事(’12年～’18年)、横浜国立大学経営学部非常勤講師(’12年度～’15年度)、経済産業省 おもてなし経営企業選 選考委員(’12年度、’13年度)、著書『投資は「きれいごと」で成功する』(ダイヤモンド社)、『持続可能な資本主義』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『幸せな人は「お金」と「働く」を知っている』(イーストプレス)

・ご参考

[2015年5月11日放送 NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀」](#)

[お金に善悪はない。でも、違和感がつきまとう理由](#)

[「共感資本社会」で新しい経済圏をつくる](#)

・申し込みサイト(当日ご参加可能です):<http://pr4.work/0/俯瞰サロン>

・俯瞰サロン:<https://www.fukan.jp/俯瞰サロン/>

◆俯瞰のクッキング“雑誌の記事から”◆

料理雑誌の巻頭言で玉村豊男さんが、大学紛争の間フランスをヒッチハイクで旅行して、旅費を節約するために自炊をしたという話がありました。あの時代を思い出しました。無為に過ごしてしまったという反省もあります。その中で豚のヒレ肉のレシピを紹介していますので作ってみました。豚のヒレ肉は脂肪もなく、意外と価格も安いのですが、あまり料理法を知りませんでした。

豚のヒレ肉は塩胡椒してフライパンで焦げ目をつけながらしっかり火をとります。一旦取り出してそのフライパンにアンチョビ入りのオリーブを刻んで入れ、白ワインを入れてソースを作ります。そこにヒレ肉を戻してからめてできあがりです。アンチョビ入りのオリーブを刻む、というソースが初めてでしたが、ヒレ肉にメリハリをつけてくれました。ヒレ肉自体に個性がないので、ソースを工夫すれば、ヒレ肉がおいしく食べられるというこ

とがわかりました。

JALの機内誌にクライムチャウダーの特集がありました。クライムチャウダーというとポストン風のものを思いつきますが、元々はお袋の味で、いろいろなクライムチャウダーがあることがわかりました。

もともと、海岸で拾ってきた二枚貝のスープに、貯蔵が効くあり合わせの野菜、ジャガイモ、タマネギ、人参、ニンニクなどを煮込んだスープが原点だったのでしょう。その中にニューヨークのクラムチャウダーが紹介されていました。牛乳仕立てではなく、トマトが入った赤いクライムチャウダーです。早速作ってみました。ただ、アサリだけでは味が薄いので、顆粒のホタテのスープを入れました。

みじん切りのタマネギとニンニクを炒め、小さめに切ったジャガイモとニンジンを入れて少し炒めた後、別に酒蒸したアサリのゆで汁を入れ、顆粒のホタテのスープを入れ、水を足して、しばらく煮ました。野菜に火が通ったら、湯剥きにしたザク切りトマトを入れて少し煮て、アサリの身を入れ、塩胡椒で味を整えました。さっぱりした感じで美味しかったです。これからはクライムチャウダーの範囲を広げて、冷蔵庫にある野菜を使って、いろいろな味のクラムチャウダーを作りたいと思います。

◆俯瞰の書棚“未完の資本主義”◆

今回は「未完の資本主義 テクノロジーが変える経済の形と未来」大野和基他 PHP 新書 2019 です。

この本は7人の経済学者、歴史学者、ジャーナリストなどの世界的なコンセプトリーダーに、ジャーナリストの大野和基さんがインタビューをした対話集です。バラバラなインタビューの集合ですので、その多様な価値観と視点から、混沌として先が見えない世界を探ろうという意図でしょう。インタビューした相手は、ポール・クルーグマン、トーマス・フリードマン、デヴィッド・グレーバー、トーマス・セドラチェック、タイラー・コーエン、ルトガー・ブレグマン、ビクター・マイヤー＝ショーンベルガーです。

それぞれの言明をご紹介します。

ノーベル経済学賞を受賞しているポール・クルーグマン氏は、「我々は大きな分岐点の前に立っている」、「格差を拡大しているのは政治の問題である」と、

著名なジャーナリスト・コラムニストであるトーマス・フリードマン氏は、「世界はフラット・ファスト・スマートになった」、「加速化(ファスト)する時代に生き残るには、『生涯学習者』になる能力がもっとも重要になる」と、

文化人類学者のデヴィッド・グレーバー氏は、「職業の半分がなくなり、『どうでもいい仕事』が急増する」、「高給取りでありながら、働いている本人が『必要ない』と思っている仕事をしている人がどれだけ多いことか」と、

チェコ共和国の若手経済学者、トーマス・セドラチェック氏は、「成長を追い求める経済学が世界を破壊する」、「金融危機が起きる前、経済学者たちは私を窓から投げ出そうしていた」と、

経済学者のタイラー・コーエン氏は、「テクノロジーは働く人の格差をますます広げていく」「中間層の没落の原因は『孤独』である」と、

オランダの歴史家、ジャーナリスト、ノンフィクション作家ルトガー・ブレグマン氏は、「ベーシックインカムと1日3時間労働が社会を救う」と、

オックスフォード大学教授、ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー氏は、「現在は金融資本主義からデータリッチ市場に移行する過渡期にある」と、

それぞれ言明しています。

日本の課題については、ほぼ共通していて、「日本経済の最大の問題は人口減少」と「日本の凋落の要因は閉鎖性」です。

下記のメッセージは衝撃的ですが、同感です。

“ブレグマン氏が来日したときに目撃したのは、人間がいる必要がない仕事に複数の人が関わっている。彼は日本で「無駄な仕事」についている人が多いことにショックを受けた。”

生産労働人口の減少など憂える前に、労働力の有効活用を議論すべきです。日本の工場は徹底的に合理化されているようですが、それは生産ラインの作業者の話で、その生産を管理している部門は無駄な仕事の山です。日本の製造業は、ここでコストを高めています。かつてある製造業の大企業で見た現実は、日本で働く従業員のなんと4分の1が「XXX 管理」という部門に属していました。

ただ、工事現場などに手厚く配置されている人は安全重視の役目であり、一概に無駄とは言えません

が。

国民全員に最低の生活を配布するというベーシックインカムについては、意見が分かれていました。

“基本的な生活を支える月額助成金としてベーシックインカムがあれば、皆が本当の自由を手に入れることができ、自分の人生をどうすべきか考える余裕ができます。”

という意見と、

“ベーシックインカムに対するもっとも重要な反対意見は、『フリーマネーを与えれば人は怠けてしまう』つまり、人々は働くのをやめてしまう」という意見があり、私も判断に迷います。しかしベーシックインカムという考え方は、検討に値する社会システムのような気がします。

“私はむしろ、ベーシックインカムを導入しなければ、先進国は経済的に立ち行かなくなると考えています。私たちは現在、貧困が存在するゆえの費用を莫大に負担しています。高い医療費や学校の中途退学率、犯罪の増加などがその例です。人間の潜在能力のとんでもない無駄遣いだと思います。”については、経済学者が数値的な試算をしてけると助かります。

下記の問いかけは、未来の課題というよりは、時間に余裕ができた今の私が直面しなければならない課題でもあります。退屈はしていませんが、何に残された人生の時間を使うべきか日々悩んでいます。

“未来における大きな課題は、「退屈」である多くの自由時間を手にしたとき、我々はどうしたらよいでしょう。”

AI が仕事を奪う、という議論については、ほぼ全員が楽観的で、過去も多くの職業がなくなってきたが、それ以上に新しい仕事が出てくるという見解です。私のこの四、五十年の人生でいろいろな職業が消えていきました。電話交換手、キーパンチャー、タイピスト、牛乳配達などです。株式のトレーダーも AI に置き換えられる人が増えてくるでしょう。工場の現場は深刻な人手不足、技能者の退職による技能の伝承という課題がありますから、もっと積極的に AI を導入すべきです。

AI が仕事を奪うとか、人類を超えるという人は、AI というテクノロジーの中身を理解していないと考えた方がいいでしょう。現在のディーププランニングは、行列式の演算の塊です。しかし囲碁の名人を破ったように、特定の分野では人間を凌駕します。

また私はこのコラムでも何度か書いていますが、GAF A の急成長の秘密の 1 つが組織と人事にあると仮説を立てて情報を集めています。下記のフレーズは体験的に理解できます。

“企業内にヒエラルキーはなく、異なるグループが存在し、互いに競合し合っています”。これがグーグルやアマゾンの組織です。

かつては、IT 業界を支配し圧倒的な巨人 IBM に勤務していました。そしてこの 30 年で崩落していった IBM と、GAF A の違いはここにあると思います。また優秀な大学の学生が、日本の大企業に入って花開くことなく職業人生を終えている現実を見ると、大企業とは才能を潰すシステムであると、つくづく実感します。目標が明確で労働集約的な活動が有効だった時代には巨大なツリー構造の軍隊的な組織が有効であったが、知識が経営資源になった時代には、これが逆効果だったと思います。

30 年前 1989 年の売り上げランキングのフォーチュン 500 の上位 20 社を見るとそこにはビックスリー、GE、IBM などが並んでいますが、30 年後のフォーチュン 500 の上位 20 社には存在しません。30 年前はアメリカの製造業と石油産業が世界経済を支配していたということです。現在 2018 年のフォーチュン 500 の上位 20 社には、アメリカ製造業の名前はなく、売上第一位は小売業のウォールマートです。石油各社は依然として上位に残っています。そして上位に、中国の石油と金融が名前を連ねています。製造業ではトヨタとフォルクスワーゲンが入っています。アップルとアマゾンも入っていますが。

そしてこの 30 年で、売上の規模が十倍と世界経済の成長がすごいです。さらに驚いた事は 1989 年ではフォーチュン 500 の上位 20 社のうち 19 社がアメリカ企業ですが、2018 年ではわずか 9 社です。この 30 年のアメリカの衰退が生々しく見えてきました。アメリカファーストを主張する気持ちがわかります。すでにアメリカの GDP は世界の約 25% に落ち、中国の GDP は約 15% です。

最後に、「光陰矢の如し」のスピードで変化している現代において、この時代のスピードに付いていけない企業の末路は下記のフレーズに示されています。

“ファスト化の波にさらわれて、いったん自分を見失うと、気付いたときは岩だらけの海岸に叩きつけられて満身創痍 になっているかもしれない。”

俯瞰的に現在の世界と社会を理解したいと思っている人には一読をお勧めします。

◆雑感・私感◆

以上も雑感・私感ですが出来る限り参照データを紹介しています。個人のブログは面白いですが、個人的な偏りがありますからできるだけメジャーなメディアを引用しています。以下は独り言として下さい。

口汚く人を罵り、吠えまくるトランプ大統領を見ていると、精神状態が異常ではないかという気がします。アメリカ国内でも精神鑑定の話も出ているようです。しかし彼を選択し、いまだに支持率は 40% というアメリカの現実も直視しなければなりません。なんとしても大統領変えたいという思いの人も多いでしょう。今回の弾劾調査はこれに決着をつける場になるかもしれません。

首里城の火災には衝撃を受けました。確か 10 年ほど前に行きました。日本と中国が混ざり合ったような美しい空間でした。スプリンクラーが義務付けられないから設置していなかったとは驚きました。義務付けられているかではなく、必要かどうかの判断が出来ないのでしょうか。貴重な沖縄の観光資源ですから、国が予算をつけて短期間で再建して行くべきだと思います。これは沖縄県民と本土の国民がひとつになるプロジェクトです。

新発足した安倍内閣がドタバタとしています。やはりポロポロと変な発言が出てくるのは、長期政権の緩みと驕りと批判されてもしょうがありません。自分は雨男だから就任以来 3 つの台風が来てしまった、格差があっても身の丈に応じて学習しろ、などはまさにその表れです。一方、依然人気が高い小泉進次郎は相変わらず中身の無い発言をしています。せっかくだったら感情込めたポエムを語って欲しいですね。という事は、日本は平和で国民が現状に満足していることでしょうか。

カシミールをめぐるインドとパキスタンがにらみ合いですが、危機感も感じます。ずっと前にこのメルマガで紹介したことがあります。「21世紀から見た歴史」では、確かインドとパキスタンが偶発的に核戦争を始めるといふくだりがありました。中近東の混乱も偶発的な衝突が気になります。さすがに、もう二度とイランもサウジアラビアの石油施設を攻撃しないと思いますが、統制が取れていない武装勢力が中近東各地に割拠していますから、制御不能です。そこにロシアとアメリカが、武器の供与という発火物を投げ込んでいます。中東の海上自衛隊の派遣はやむを得ませんが、何もなことを祈ります。

◆内容・記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は下記まで
webmaster@fukan.jp

◆俯瞰 MAIL94 号(2019年11月4日)
発行元:一般社団法人俯瞰工学研究所
発行人:松島克守
編集長:松島克守
配信人:石川公子
URL:<https://www.fukan.jp/>
